



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月5日

上場会社名 アルコニックス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3036 URL https://www.alconix.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員COO (氏名) 手代木 洋
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員CSO (氏名) 鈴木 匠 TEL 03-3596-7400
 コーポレート部門長
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	46,837	26.8	3,931	29.0	4,251	21.9	2,718	11.6
2022年3月期第1四半期	36,944	—	3,046	—	3,487	—	2,435	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 3,811百万円 (7.1%) 2022年3月期第1四半期 3,559百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	90.41	—
2022年3月期第1四半期	97.26	97.23

(注) 2023年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	189,723	60,299	31.5
2022年3月期	176,437	57,331	32.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 59,709百万円 2022年3月期 56,817百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	24.00	—	28.00	52.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	26.00	—	26.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	8.7	9,100	△17.4	9,000	△18.3	6,800	△9.4	226.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2023年3月期の連結業績予想については、[添付資料]4ページ「1.当四半期決算に関する定性情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 — 社（社名） 除外 — 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、[添付資料] 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	30,977,600株	2022年3月期	30,977,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	907,207株	2022年3月期	907,207株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	30,069,931株	2022年3月期1Q	25,035,893株

（注）当社は2022年8月23日より「株式給付信託（BBT）」を導入しており、株主資本において自己株式として計上されている「株式給付信託（BBT）」に残存する自社の株式は、2023年3月期第1四半期1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における国内外の経済情勢は、新型コロナウイルス感染症への対策が継続するとともに経済活動の正常化に向けた動きが進んだ一方、中国での新型コロナウイルス感染症の感染再拡大によるロックダウンの影響、ウクライナ情勢長期化の他、原材料、資源価格の上昇及び急速な円安等もあり、総じて不透明な状況で推移いたしました。

当社グループを取巻く業界では、幅広い用途での半導体・電子部品需要が当第1四半期連結累計期間を通して堅調でありました。自動車関連では、EV化や軽量化等の進展による素材、部品需要の拡大傾向は続く一方、中国でのロックダウンの影響や、サプライチェーンの混乱による半導体部品等の調達遅延により、顧客による減産や生産調整が行われたことから需要は減少いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、堅調に推移する半導体関連需要の増加を受けて、半導体製造装置向け等の金属加工部品、IT機器向け電子・電池材料、伸銅品及びアルミ圧延品の取扱いが前年同期に比べ増加いたしました。他方、国内外の自動車関連需要の減少により金属精密プレス部品、カーボンブラシ、非鉄原料等の取扱数量が前年同期に比べ減少いたしました。なお、利益面においては主に電子機能材及び装置材料での増収が寄与したことにより、当第1四半期連結累計期間における連結経営成績は増収増益となりました。

当第1四半期連結累計期間における主な経営成績は次のとおりであります。

	前第1四半期連結 累計期間 (百万円)	当第1四半期連結 累計期間 (百万円)	前年同期比増減額 (百万円)	前年同期比増減率 (%)
売上高	36,944	46,837	9,893	26.8
営業利益	3,046	3,931	884	29.0
経常利益	3,487	4,251	763	21.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,435	2,718	283	11.6

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

		前第1四半期連結 累計期間 (百万円)	当第1四半期連結 累計期間 (百万円)	前年同期比 増減額 (百万円)	前年同期比 増減率 (%)
商社流通 －電子機能材	売上高	8,697	13,237	4,539	52.2
	セグメント利益	1,031	1,830	798	77.4
商社流通 －アルミ銅	売上高	14,267	17,506	3,238	22.7
	セグメント利益	1,008	962	△46	△4.6
製造 －装置材料	売上高	8,080	9,763	1,683	20.8
	セグメント利益	352	426	73	20.9
製造 －金属加工	売上高	7,415	6,967	△448	△6.0
	セグメント利益	1,078	1,037	△41	△3.8

・商社流通－電子機能材事業

電子部品及び二次電池材料は、中国でのロックダウンやスマートフォン関連需要の減速等のマイナス要因があるものの、幅広い用途での需要増を受けて取扱高は前年同期に比べ増加いたしました。一方、レアメタル・レアアースは、自動車関連需要の減少を受けて取扱数量は若干減少傾向となりましたが、市況の上昇等もあり売上及び利益は前年同期に比べ増加いたしました。

・商社流通－アルミ銅事業

製品分野においては、半導体・電子部品向け需要の増加や堅調な国内建設需要を背景に、アルミ圧延品及び伸銅品の取扱高が前年同期に比べ増加いたしました。原料分野においては、自動車需要の減少の影響もあり主力の銅・アルミスクラップ及びアルミ再生塊の取扱数量が前年同期に比べ低調でありました。なお、アルミ再生塊については、非鉄市況の上昇及び急激な円安の影響により取扱高は前年同期に比べ増加いたしました。

・製造－装置材料事業

材料分野においては、米国及び中国の両拠点における需要拡大によりめっき材料の出荷が前年同期に比べ大きく増加いたしました。カーボンブラシの出荷は自動車需要の減少により、前年同期に比べ減少いたしました。装置分野においては、探傷剤及びペイント等消耗材料の出荷が国内外で堅調であり、前年同期に比べ増加いたしました。他方、自動車等耐久消費財の生産減速により、非破壊及びマーキングの両方で大型装置の出荷が前年同期に比べ減少いたしました。

・製造－金属加工事業

精密研削加工部品は、半導体を含む部品の調達遅延等の影響もあり出荷は前年同期に比べ低調でありました。精密切削加工部品は半導体需要の増加が継続する中、半導体製造装置向けの出荷が堅調に推移いたしました。また、金属精密プレス部品は、国内外における自動車関連需要の減少により、出荷が前年同期に比べ減少いたしました。なお、空調機器向け金属加工部品は国内の空調関連向け出荷が堅調に推移し、前年同期に比べ増加いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態

a. 流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は146,572百万円であり、前連結会計年度末比11,452百万円の増加となりました。主な内訳は、受取手形及び売掛金の増加7,818百万円、棚卸資産の増加3,077百万円、及び現金及び預金の減少44百万円であります。

b. 固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は43,151百万円であり、前連結会計年度末比1,833百万円の増加となりました。主な内訳は、ジュピター工業株式会社及びその海外子会社の連結取込み及び設備投資に伴う有形固定資産の増加1,735百万円、投資その他の資産の増加199百万円、及び無形固定資産の償却による減少101百万円であります。

c. 流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は105,979百万円であり、前連結会計年度末比11,335百万円の増加となりました。主な内訳は、短期借入金の増加6,582百万円、支払手形及び買掛金の増加4,070百万円、未払法人税等の減少1,289百万円、コマーシャル・ペーパーの増加999百万円、及び1年内返済予定の長期借入金の増加24百万円であります。

d. 固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は23,444百万円であり、前連結会計年度末比1,017百万円の減少となりました。主な内訳は、長期借入金の減少805百万円、及び社債の減少75百万円であります。

e. 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は60,299百万円であり、前連結会計年度末比2,968百万円の増加となりました。主な内訳は、利益剰余金の増加1,873百万円、為替換算調整勘定の増加1,582百万円、その他有価証券評価差額金の減少439百万円、及び繰延ヘッジ損益の減少126百万円であります。

②経営成績

a. 売上高

売上高はグループ全体では増収となりました。取扱品及び製品別で見ると、商社流通は、電池・電子材料、レアメタル、アルミ圧延品及び伸銅品の取扱いが前年同期に比べ増加いたしました。アルミ・銅スクラップ等の取扱いが前年同期に比べ減少いたしました。

製造では、半導体製造装置向け精密切削加工部品、めっき材料の出荷が前年同期に比べ増加いたしました。半導体実装装置向け精密研削加工部品、自動車向け精密金属プレス部品、カーボンブラシ、非破壊検査・マーキング関連の装置の出荷は前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は46,837百万円（前年同期比26.8%増加）となりました。

b. 売上総利益

主に電子機能材及び装置材料の増収が寄与し、当第1四半期連結累計期間における売上総利益は7,590百万円（前年同期比16.1%増加）となりました。

c. 販売費及び一般管理費

営業活動費の増加により、当第1四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は3,659百万円（前年同期比4.9%増加）となりました。

d. 営業利益

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における営業利益は3,931百万円（前年同期比29.0%増加）となりました。

e. 営業外収益、営業外費用

受取配当金、デリバティブ評価益等の計上により、営業外収支（営業外収益－営業外費用）は320百万円の収入超となりました（前年同期は441百万円の収入超）。

f. 経常利益

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における経常利益は4,251百万円（前年同期比21.9%増加）となりました。

g. 特別利益、特別損失

ジュピター工業株式会社の株式取得に伴う負ののれん発生益等の特別利益200百万円を計上する一方、固定資産売却損等の特別損失3百万円を計上いたしました。

h. 親会社株主に帰属する四半期純利益

税金等調整前四半期純利益4,449百万円から、法人税等1,676百万円、連結子会社12社における非支配株主に帰属する四半期純利益54百万円を差引き、当第1四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は2,718百万円（前年同期比11.6%増加）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、2022年5月13日の「2022年3月期決算短信[日本基準]（連結）」で公表いたしました通期連結業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,689	26,645
受取手形及び売掛金	59,415	67,234
商品及び製品	35,974	38,675
仕掛品	4,049	4,418
原材料及び貯蔵品	3,641	3,650
その他	5,989	6,536
貸倒引当金	△642	△588
流動資産合計	135,119	146,572
固定資産		
有形固定資産	25,061	26,796
無形固定資産		
のれん	1,887	1,744
その他	2,816	2,857
無形固定資産合計	4,703	4,601
投資その他の資産	11,553	11,752
固定資産合計	41,317	43,151
資産合計	176,437	189,723
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,408	47,479
短期借入金	31,590	38,173
コマーシャル・ペーパー	4,999	5,998
1年内返済予定の長期借入金	6,208	6,233
1年内償還予定の社債	149	150
未払法人税等	2,682	1,392
賞与引当金	1,244	1,257
その他	4,358	5,293
流動負債合計	94,643	105,979
固定負債		
社債	325	250
長期借入金	18,525	17,720
役員退職慰労引当金	447	354
役員株式給付引当金	92	92
退職給付に係る負債	994	1,053
長期未払金	133	133
その他	3,943	3,840
固定負債合計	24,462	23,444
負債合計	119,106	129,423

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,787	5,787
資本剰余金	5,238	5,239
利益剰余金	40,563	42,436
自己株式	△1,157	△1,157
株主資本合計	50,431	52,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,238	1,799
繰延ヘッジ損益	321	195
為替換算調整勘定	3,825	5,408
その他の包括利益累計額合計	6,386	7,403
新株予約権	51	49
非支配株主持分	462	541
純資産合計	57,331	60,299
負債純資産合計	176,437	189,723

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	36,944	46,837
売上原価	30,409	39,247
売上総利益	6,535	7,590
販売費及び一般管理費	3,488	3,659
営業利益	3,046	3,931
営業外収益		
受取利息	11	11
仕入割引	3	4
受取配当金	304	283
為替差益	153	7
不動産賃貸収入	21	20
持分法による投資利益	—	1
デリバティブ評価益	52	138
その他	81	71
営業外収益合計	628	540
営業外費用		
支払利息	120	158
売上割引	1	1
手形売却損	7	8
不動産賃貸原価	4	4
持分法による投資損失	3	—
その他	50	46
営業外費用合計	187	219
経常利益	3,487	4,251
特別利益		
固定資産売却益	3	3
負ののれん発生益	—	184
新株予約権戻入益	—	1
投資有価証券売却益	24	—
助成金収入	11	3
その他	0	7
特別利益合計	39	200
特別損失		
固定資産売却損	0	1
固定資産除却損	1	1
その他	0	—
特別損失合計	2	3
税金等調整前四半期純利益	3,525	4,449
法人税等	1,057	1,676
四半期純利益	2,468	2,772
非支配株主に帰属する四半期純利益	33	54
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,435	2,718

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	2,468	2,772
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△348	△439
繰延ヘッジ損益	48	△126
為替換算調整勘定	1,358	1,572
持分法適用会社に対する持分相当額	32	31
その他の包括利益合計	1,090	1,038
四半期包括利益	3,559	3,811
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,506	3,735
非支配株主に係る四半期包括利益	53	75

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の当社グループに与える影響等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	7,665	13,969	7,965	7,343	36,944
外部顧客への売上高	7,665	13,969	7,965	7,343	36,944
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,032	298	114	71	1,518
計	8,697	14,267	8,080	7,415	38,462
セグメント利益	1,031	1,008	352	1,078	3,471

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,471
セグメント間取引消去	16
四半期連結損益計算書の経常利益	3,487

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	13,109	17,284	9,580	6,862	46,837
外部顧客への売上高	13,109	17,284	9,580	6,862	46,837
セグメント間の内部売上高又は振替高	127	221	182	105	637
計	13,237	17,506	9,763	6,967	47,474
セグメント利益	1,830	962	426	1,037	4,256

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,256
セグメント間取引消去	△4
四半期連結損益計算書の経常利益	4,251

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「金属加工」セグメントにおいて、株式の取得によりジュピター工業株式会社、同社子会社の青島木星電子有限公司及び蘇州木星電子有限公司を連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては、184百万円であります。

4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、ジュピター工業株式会社、同社子会社の青島木星電子有限公司及び蘇州木星電子有限公司を連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「金属加工」のセグメント資産が、3,057百万円増加しております。